

本 会 記 事

I. 平成 20 年度第 1 回拡大常任評議員会議事録

日 時：平成 20 年 11 月 22 日（土）13:30～17:00

場 所：日本植物防疫協会（3 階会議室）

出席者：露無慎二（会長，議長），白石友紀（副会長，中・四国常評），上田一郎（北海道常評），吉川信幸（東北常評），夏秋知英（北関東常評），高橋賢司（北関東常評），難波成任（南関東常評，賞選考委），日比忠明（南関東常評，功績者推薦委員会委員長），百町満朗（中部常評），眞山滋志（近畿常評），大島一里（九州常評），加来久敏（賞選考委員，選挙管理委員），寺岡 徹庶務幹事長，築尾嘉章庶務副幹事長，森山裕充会計幹事，笹谷孝英庶務幹事，川上 顕庶務幹事

欠席者：土屋健一（賞選考委），石井英夫（賞選考委），雨宮良幹（選挙管理委員会委員長），篠原弘亮幹事

議 題

1. 審議事項

(1) 平成 20 年度功労者の推薦について

- ・名誉会員候補者（小島 誠，鈴木孝仁），永年会員候補者（長井雄治，山口武夫）を候補者として推挙することとした。

(2) 論文賞，学会賞及び学術奨励賞の選考

- ・学会賞及び学術奨励賞について，今年度初めて評議員会を開かずして郵便投票により候補者の決定を行った。
- ・論文賞については，15 編の候補論文を審査し，2 編を候補として，以下の論文を推薦した。

① N. Nishimura: Selective media for *Fusarium oxysporum*. *JGPP* 73 (5): 342–348 (2007)

② A. Kawaguchi, K. Inoue, and H. Nasu: Biological control of grapevine crown gall by nonpathogenic *Agrobacterium vitis* strain VAR03-1. *JGPP* 73 (3): 133–138 (2007)

- ・論文賞選考方法について，日本植物病理学会論文賞受賞規定の第 4 項の「なお，推薦にあたっては，推薦理由を付す。」の部分を実情に即した形で削除し，第 5 項末尾に「なお，報告にあたっては，選定理由を付す」を書き加えることを提案し，大会時に開催される評議員会に諮ることとした。第 5 項に加えらるる文中の「報告」は「推薦」に変えるべきとの意見が出されたが，編集委員会の独自性と決定権を示すためには「報告」で良いとの意見も出

たため，評議員会でさらに論議，検討することとした。

- ・日本植物病理学会論文賞受賞規定の第 6 項中の「受賞者は，第 6 項により～」の「第 6 項」は「第 5 項」の間違い。訂正が必要。

(3) 科研費申請状況及び JGPP の ISI の Web of Science への登録

- ・本年度交付された科研費は 410 万円で平成 21 年度の申請要求額は 400 万円とした。平成 19 年度には科研費が不採択でも，学会誌が刊行できた実情と，本年度から科研費申請書に「自立刊行への取り組み」を記述することが必須であったことから，今年とほぼ同額の要求額とした。内容的には，国際性を増す努力を傾注することで，投稿数の増加を見込むと共に，それに伴う刊行経費増額分を自助努力で賄うといった自立目標に向けた取り組みを行うと記述した。

- ・評議員からインパクトファクター向上のために活動する必要性が指摘された。その 1 つとして，学会誌のオープン・アクセスへの取り組み（最新号から 1 年以上経過した論文の公開）が提案された。植物病理学会会員の減少にもつながる可能性はあるものの，日本菌学会は既にオープン・アクセス化されており，発行元のシュプリンガー社と相談して，論文の電子アーカイブ化を進める J-STAGE との調整も試みることにした。

- ・アメリカ植物病理学会（APS）からの提案（APS 100 周年記念大会の参加報告）されている相互の会員間で，それぞれ独自に刊行している学会誌の相互オープン・アクセス化の提案も紹介された。

- ・高インパクトファクターを獲得するための議論がなされた。編集委員会としては，レビューも多く掲載すること等の議論がなされた。

(4) 年次大会における学生優秀ポスター賞の評価票の改正案について

- ・山形大会では学生優秀発表賞はポスター発表に限定することとした。
- ・ポスター発表可能課題数は合わせて 220～250 題となる。
- ・学生優秀ポスター賞選考方法について，幹事会の提案について論議した。賞選考委員 1 名と評議員 3 名からなる評価者グループで 20～25 題程度を担当し採点する。

- 審査担当者が講演者名に含まれる場合には当該審査課題についてのみ、その採点から外れる。
 - ポスター発表時を含めて、随時採点する。
 - 評価項目、評価基準については提案を若干手直しして提議する。
- (5) 国際会議 (2011年 IUMS 札幌) におけるシンポジウム企画について
- マイクロロジー Division は8学会からのプログラム委員により構成されている。ウイルス Division は日本ウイルス学会が準備を担当しているが、ウイルス関連他学会との連絡が必ずしも充分ではない状況である。
 - 開催に当たり、各学会に必要な経費の一部負担が求められることが予想される。そのため、来年度から予想される負担経費の一部を積み立てる必要がある。IUMS は基本的に学会参加費で会議費用を工面する意向であるものの、国際学術交流基金の取り崩しも含めて、対応を検討しておく必要がある。学会誌刊行補助としての科研費も毎年交付される確証もないことから、後者の基金の取り崩しはできるだけ避けたいこと、他の国際会議開催の可能性も高いことから (IS-MPMI2011 等)、何らかの積み立てを行う方向で検討することとなった。
- (6) 海外関連学会との交流協定締結、外国人招聘について
- APS 100周年記念大会に露無会長、白石副会長、寺岡庶務幹事長が参加し、記念楯の贈呈を行った。これに関する記事を学会ニュースに掲載した方が良いとの意見が出された。
 - 大会参加時に、2011年の APS ハワイ大会は日米合同で開催したいとの打診があった。2011年は IUMS 札幌大会が開催予定であること、IS-MPMI2011開催の可能性もあることから、必ずしも合同開催が可能か疑問であり、確答は回避してある。
 - APS から日本の学会100周年 (2017年) に協力する旨、相互の会員間で会誌の相互アクセス等の提案がなされた。

2. 報告事項

- (1) 平成21年度副会長選挙結果の報告
- 副会長選挙で上田一郎氏が選出された。
- (2) 平成20年度日本農学進歩賞受賞報告
- 本学会から推薦した高野義孝氏が選出され、11月25日の授賞式には寺岡庶務幹事長及び築尾副幹事長が参加することとなった。
- (3) 平成21年度日本農学進歩賞候補者の募集について
- 本年度の評議員による推薦候補者が少なかったことから、山形大会前後に評議員に進歩賞候補者推薦を通知・告知する。
- (4) 編集委員会報告 (奥野編集委員長)
- 原著編集委員数を前年より増やした。
 - 2008年の英文誌受率率が低い (39.3%) が、これは、審査中の原稿が多いこと、海外 (特に西アジア方面) からの投稿論文で完成度の低い原稿が多いことが原因となっている。
- (5) 電子図書館サービスシステム対応について (森山幹事)
- 日本植物病理学会誌の創刊号からの和文誌バックナンバーが J-STAGE に引き渡され、電子アーカイブ化作業が進められている。J-STAGE による電子アーカイブ化により文字検索が可能となる。国立情報学研究所 (NII) による文献データサービス (CiNii) で閲覧が可能となっていた病理学会誌の閲覧はこれまで通り可能である。今後は、CiNii は J-STAGE に統合されていく予定である。
- (6) 学会会計の中間報告 (森山幹事)
- 会費収入減少は、会員減少、会費未納が主な原因である。
 - 準会員会費収入は、年度末に予算額が納められる予定である。
 - 雑収入の増加は、ISI での文献ダウンロード数の増加による。
- (7) 平成20年度大会、部会報告 (築尾副幹事長)
- (8) 平成20年度研究会、談話会開催報告 (築尾副幹事長)
- (7), (8) とともに学会ニュースを参照
- (9) 第6回教育プログラムの開催について
- これまでは、3つのブロックに分けて開催場所を決定していた。平成16年 (東京・中央), 17年 (東京・中央), 18年 (大阪・西), 19年 (岩手・北), 20年 (鹿児島・西) の順番で毎年開催した。
 - 鹿児島で開催されたプログラムでは、県 (普及員等)、植物防疫所、民間 (農薬・種苗関連) 各機関から参加。植物病理学会員以外からの参加も多かった (14名)。要望として、診断研究会との共同開催が挙げられた。しかし、診断研究会は部会等と連動して開催されており、これに教育プログラムを共催することは難しい。
 - 教育プログラムの開催場所は、副会長が関係者と相談しながら決定していた。ブロックごとの順番で開催場所を決定する場合、各種研究会・談話会の開催地と重複する可能性があり、柔軟に対応してもらいたいという意見が出された。そのため、各部会・研究会・談話

会の責任者が開催場所、時期について意見調整する場が必要となる。このような場を学会事務局が提供できないか要望が出された。これについては研究会・談話会責任者が不明の場合があり、連絡が取りづらいことが問題となる。このため、学会事務局で責任者の所在を明らかにする目的も含めて、各研究会・談話会にアンケートを実施する方向で検討する。

- 教育プログラムの開催場所だけで全てを対応するのは困難なため、ブロック内の部会単位で協力する必要がある。
- 教育プログラムを隔年開催してはどうかという意見が出されたが、参加希望人数が増加する恐れが指摘された。また、学会非会員の参加については、プログラム参加を機会に学会加入することで会員増につなげられるという意見が出された。
- 教育プログラムの十分な準備を行うため、2年先までの開催場所を決める必要があるという意見が出された。
- 来年度の教育プログラム開催地の候補として中部地区が挙げられた。開催の可否について関係者間で検討することとなった。

(10) 技術士対応委員会の取り組み状況 (築尾副幹事長)

- 6月5日に第1回5学会技術士対応委員会が開催され、12月15日に第2回5学会技術士対応委員会が開催される予定である。病理学会内では8月22日に技術士対応委員会が開催され、学会山形大会で技術士受験対応セミナーを開催することを決定した。

(11) 日本農学会の取り組み状況

- 植物病理学会から評議員2名、運営委員2名(内、常任1名)を出すこととなった。

(12) 日本微生物学連盟への加盟状況と委員推薦の報告

(13) 国際植物病理学会 (ISPP) の状況報告

- 次回の大会は中国・北京(2013)で開催される。
- 植物防疫関連の Journal の創刊を目指す。
- 学会長には M. Lodovica Gullino 氏 (Italy, 2008-2013) が選出された。
- 今回は日本植物病理学会の国際対応委員が出席できなかった。今後は必ず本学会の担当委員のうち、最低1人は参加することを明記すると共に、旅費等の工面がつかない場合は学会が補填することとも検討することとした(学会マニュアルに明記する方向で検討)。

(14) ISPP への過去5カ年の活動報告書

- イタリア・トリノで開催された ISPP に本学会の過去5年間の活動報告書を提出した。

(15) 平成22年度大会の開催について

- 近畿ブロックで奥野先生を中心に対応する。平成23年度は南関東ブロックが担当する。

(16) その他

- 日本菌学会と本学会の共同シンポジウムが来年5月に開催される。
- 男女共同参画について、取りまとめを夏秋啓子氏に打診し了解していただいた。学会内で問題を発掘してその解決に向けて検討する委員会を立ち上げたい。
- 植物病原菌及びその遺伝子組換え体に対する取り組みを評議員会に提案したい。植物病原体及びその組換え体に関する規制が近年国際的に厳しくなっている。そして、動物病原微生物と同様の厳しい規制を受ける可能性が出てきた。このような規制を義務づけるような法律・指針の策定過程に学会が関与し、植物病原体の取り扱いが必要以上に規制されないよう取り組む必要がある。

II. 平成20年度第1回評議員会議事録

日時：平成21年3月25日(水)14:00~17:00

場所：遊学館(山形県生涯学習センター)第2研修室

評議員出席者：秋光和也、荒瀬 栄、畔上耕児、古屋廣光、日比忠明、曳地康史、廣岡 卓、堀江博道、百町満朗、池上正人、稲垣公治、石黒 潔、石井英夫、加来久敏、久保康之、眞山滋志、生井恒雄、難波成任、夏秋啓子、夏秋知英、大木 理、大島一里、奥野哲郎、尾谷 浩、佐野輝男、陶山一雄、土屋健一、上田一郎、吉田幸二、吉川信幸、露無慎二会長、白石友紀副会長、寺岡 徹幹事長

幹事出席者：築尾副幹事長、森山会計幹事、笹谷庶務幹事、篠原庶務幹事、川上庶務幹事、桑田 茂次期副幹事長、佐々木信光次期幹事、佐藤 衛次期幹事

1. 審議事項

(1) 平成21年度定期総会資料の検討

1) 平成20年度会務報告

① 庶務報告 (笹谷庶務幹事)

名誉会員(小島 誠、鈴木孝仁)、永年会員(比留木忠治、長井雄治、山口武夫)、学会賞(秋光和也、一瀬勇規、土佐幸雄)、学術奨励賞(古谷綾子、五味剣二、川口 章)、論文賞(Nishimura N, Kawaguchi A. ら)について承認された。

② 会計報告 (森山会計幹事)

③ 会計監査 (夏秋啓子会計監査)

④学会報編集報告（奥野原著編集委員長）

原著編集委員として4名（廣岡 卓，石黒 潔，吉田重信，大木 理）を新たに任命した。

⑤その他 なし

平成20年度会務報告は一括して承認された。

2) 平成21年度会務案

①行事案（川上庶務幹事）

②予算案（篠原庶務幹事）

③学会編集計画案（奥野編集委員長）

④その他 なし

平成21年度会務案は字句等の修正の後，一括して承認された。

(2) 大会開催地について

1) 平成22年度大会開催地の決定（奥野哲郎）

平成22年4月18～20日に国立京都国際会館（京都市）で開催する。

2) 平成23年度大会開催予定地について

これまでの慣例に従い関東部会南関東ブロック内で開催することとした。

(3) その他

1) 平成21年度拡大常任評議員会と賞選考方法について

- ・平成21年度も拡大常任評議員会を開催し，必要な審議を取り進める。参加者は常任評議員，編集委員長，賞選考委員，功績者推薦委員長，選挙管理委員長を原則とし，必要であれば適任者に参加を要請する。

- ・拡大常任評議員会の位置付けを明確にし，必要な会則改正も含めて，来年の評議員会に改正案を提出し，審議・承認を受けることとする。

- ・常任評議員会議事録については，学会報本会記事に掲載することとする。

2) 学会報（和文誌）投稿規定ならびに論文賞授賞規程の一部改正について

資料1および2のように，実情に即した改正が承認された。

3) 科研費取得およびJGPPインパクトファクター取得に向けた活動について

- ・来年度についても例年と同様，会誌刊行のために科研費申請を行った。（寺岡幹事長）

- ・2010年からJGPPにインパクトファクターがつくことになる。過去2年間のJGPP掲載論文数を分母とし，Web of Scienceに掲載されている雑誌に掲載された論文で引用されたJGPP掲載論文を分子として，インパクトファクターが計算される。そのため，

JGPPに優れた論文を投稿・掲載すると共に，Web of Scienceに既登録の雑誌に掲載した論文にJGPP掲載論文を積極的に引用することが重要となる。（奥野哲郎）

4) 植物保護会議（旧植物防疫研連的な集合体構想）について（寺岡幹事長）

- ・旧微生物研連を主体として，日本微生物学連盟が設立されたように，3学会（植物病理学会，農薬学会，応用動物昆虫学会）と雑草学会，植物成長調節剤研究会を主体として，旧植物防疫研連のような連合体再構築の必要性が確認され，学術会議会員を中心に，他学会と5月又は6月に連盟立ち上げ準備を推進することが承認された。

5) IUMS, IS-MPMIなどの国際会議の開催について（寺岡幹事長）

- ・IUMSについて：2011年9月に北海道札幌市で開催が予定されており，宍戸雅宏氏がプログラム委員として参画している。開催準備資金として，全体で500万円を準備し，参画団体の一つとして病理学会も会員数から50万円程度の拠出が求められる予定。学術会議に資金援助の申請をする予定で，IUMS閉会後に各学会に返金される予定である。

- ・IS-MPMIについて（奥野哲郎）：2011年開催予定のIS-MPMIを日本で開催することに関して，正式な要請，打診は現時点ではない。2007年のIS-MPMI開催時に島本氏（奈良先端大），渋谷氏（明治大）に日本での開催が最初に打診された。本学会としては，開催準備活動のためにはIS-MPMIからの正式な要請が必要となる。2011年にはIUMSの開催が予定され，昨年（2010年）のAPS 100周年記念大会において，2011年のAPS年次大会（ハワイ）を日本と共催できないかとの打診も受けていることから，IS-MPMI開催にあたって関連する他学会等も含めて，協議して対応することが了承された。

6) 海外学会との交流協定締結，外国人招聘について（寺岡幹事長）

今年度は韓国植物病理学会と交流協定を締結した。本大会に韓国植物病理学会から現会長のUhm氏と次期会長のYu氏を招聘し，Uhm氏に記念講演を依頼した。

7) 学会開催時の託児所サービス等について（寺岡幹事長，夏秋啓子）

本学会の大会等の開催時に託児所サービスの提供について，要望が出された。近年，他学会でも同様のサービスを提供する学会が増えてきており，男女共

通の問題として、男女共同参画学協会連絡会で実際に問題意識を持っている学会員の意見を反映して、迅速な導入に向けて、検討していくことが了承された。(夏秋啓子)。

- 8) 平成 21 年度日本農学進歩賞推薦候補者の選考について (寺岡幹事長, 日比忠明)
6 月に学会として推薦者を提出する必要があるため、4 月以降に候補者投票用紙を評議員に配布する。

2. 報告事項

- (1) 平成 20 年度日本農学賞選考結果について
応動昆から推薦された湯浅氏が受賞された。
- (2) 学会報編集委員会 (奥野編集委員長)
原著論文採択率は、英文誌で 49%, 和文誌で 72% となっている。和文誌投稿論文に関して、他の公式なデータベース上に同じ図表を掲載したものが投稿され、新規性の観点から JGPP への掲載が否定されたという問題が生じた。会員に注意喚起する必要がある。
- (3) 病名委員会 (大木病名委員会委員)
病名目録追録を作成した。病名の削除を 2 点行った。(独) 生物研による日本植物病名検索プログラムの仮公開を行い、明らかとなった問題点をもとにプログラムの修正等を行い、早期の公開を目指して準備を行っている。
- (4) 植物ウイルス分類委員会 (大木植物ウイルス分類委員長)
本大会においても委員会を開催し、議論を行う。
- (5) 教育プログラム推進委員会 (大島一理)
2008 年は鹿児島大学で、8 月 8 日～12 日まで開催し、20 名の参加があった。内訳は公的研究機関 10 名、種苗関連 7 名、その他民間 3 名で、半数は非会員であった。学会九州部会に属する多くの先生方に講師等で参加していただいた。今後も基本的な同定技術を含めたテーマを積極的に取り入れていくことが必要と考えられた。
- (6) 技術士対応委員会 (築尾技術士対応委員会委員)
本大会中に技術士試験対応セミナーを開催する。植物保護分野の技術士 100 名を育成するのを目標とし、5 学会技術士育成協会で推進していく。
- (7) 情報電子化委員会 (桑田情報電子化委員会委員長)
J-stage による JGPP の電子化を行った。
- (8) 日本農学会 (露無会長)
100 周年を迎えるにあたり、学会として協力していく。
- (9) 日本微生物学連盟について

- (10) 国際植物病理学会 (露無会長)
委員の任期は 1 期のみであることから、早急に次期委員の選任を行う必要がある。
- (11) 韓国植物病理学会との交流協定締結及び記念講演について
- (12) 米国植物病理学会 100 周年記念の楯贈呈について (露無会長)
7 月 26 日に露無会長、白石副会長、寺岡幹事長がアメリカ植物病理学会 100 周年記念大会に出席し、記念楯の贈呈を行った。APS 関係者から米国との交流協定の締結を打診された。また、2011 年に米国と日本の植物病理学会共同大会 (ハワイ) の開催も打診された。
- (13) 海外学術交流基金について (露無会長)
韓国植物病理学会との交流協定を締結し、本大会において、韓国植物病理学会現会長及び次期会長を招待するための経費を計上した。今後も関連学会との交流協定締結を目指してゆく。
- (14) 大会・部会・研究会等の会計報告と本部との連絡について (寺岡幹事長)
研究会・談話会等の開催数が増加しているため、日程調整が困難になってきている。本部に各研究会・談話会の連絡先等が必ずしも届出がなく、調整が困難なこともある。そのため、本大会を活用して、各研究会・談話会との連絡会議を開く。これまでの研究会の慣習、会計の独自性を確保していくと共に、日程調整をウェブ上に設けた学会カレンダー等で調整することも考えている。いずれにしても、本学会の公益法人化を視野に入れて、各研究会・談話会責任者には、①収支決算報告の作成と保存、②学会ニュースへの活動報告等の掲載を必ず実施することをお願いしたい。できれば、いずれ各研究会等の活動が会計上からも見える形にしていきたい。
- (15) 学会員の JGPP アクセス方法について (寺岡幹事長)
4 月 1 日から JGPP へのアクセス方法が変わる。JGPP へのアクセスは、学会ホームページの会員サービス内の「オープンアクセス」をクリックして会員番号とパスワードを入力することでアクセスするように変更される。
- (16) 植物病名データベースの開発状況に関する生物研ジーンバンクからの報告 (築尾副幹事長)
2000 年度版病名目録をベースにデータベースが構築されている。それ以降の追録その他については含まれていない。

- (17) 会員のご逝去 (寺岡幹事長) 8月6日
 本年度5名の会員がご逝去された。 9月20日
 11月22日

III. 総会資料

1. 平成20年度会務報告

(1) 庶務報告

1) 会員数 (平成21年1月1日現在)

名誉会員	30名
永年会員	73名
正会員	1,350名 (内 外国会員23名)
学生会員	239名
準会員	174団体
賛助会員	40社 (111口)

2) 会員のご逝去

津山博之氏	平成20年5月1日
木村郁夫氏	平成20年6月16日
廣原宗次氏	平成20年8月7日
衣川 勝氏	平成20年11月15日
兼子 勇氏	平成20年12月5日

3) 学会報

発行部数	英文誌：第74巻1～6号	各2,150部
		(計12,900部)
	和文誌：第74巻1～4号	各2,200部
		(計8,800部)
頒布部数	英文誌：国内 (1～6号)	各1,819部
		(計10,914部)
	国外 (1～6号)	各83部
		(計498部)
	計	各1,902部
		(計11,412部)

(内 国外交換45 国外寄贈3 名誉会員29 永年会員20 賛助会員64 準会員171 計332)

	和文誌：国内 (1～4号)	各1,939部
		(計7,756部)
	国外 (1～4号)	各71部
		(計284部)
	計	各2,010部
		(計8,040部)

(内 国内交換5 国内寄贈9 広告主4 名誉会員29 永年会員71 賛助会員64 準会員171 計353)

4) 役員会・委員会開催状況

拡大常任評議員会	平成20年11月22日
評議員会	平成21年3月25日
幹事会	平成20年5月17日

編集委員会	平成21年3月25日
賞選考委員会	平成20年9月20日
	11月22日
功績者推薦委員会	平成20年11月3日
選挙管理委員会	平成20年11月12日
病名委員会	平成21年3月26日
学会ニュース編集委員会	平成21年3月26日
教育プログラム推進委員会	平成20年12月20日
技術士対応委員会	平成20年8月22日

	12月22日
5 学会技術士育成推進委員会	平成20年6月5日
	12月15日
植物ウイルス分類委員会	平成20年4月27日

5) 総会・大会開催状況

総会	平成20年4月26日
	くにびきメッセ (松江市)
大会	平成20年4月26～28日
	くにびきメッセ (松江市)

6) 部会開催状況

北海道部会	平成20年10月16～17日
	北海道農業研究センター (札幌市)
東北部会	平成20年9月25～26日
	岩手大学 (盛岡市)
関東部会	平成20年9月13～14日
	日本大学生物資源科学部 (藤沢市)
関西部会	平成20年9月18～19日
	和歌山ビッグ愛 (和歌山市)
九州部会	平成20年11月5～6日
	セントヒル長崎 (長崎市)

7) 談話会・研究会・教育プログラム開催状況

EBC (Evidence-Based Control) 研究会ワークショップ2008	平成20年4月25日	くにびきメッセ (松江市)
第18回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム	平成19年4月29日	くにびきメッセ (松江市)
第10回植物病害生態研究会	平成20年4月29日	くにびきメッセ (松江市)
第9回植物ウイルス病研究会	平成20年4月29日	倉敷市立美術館講堂 (倉敷市)

- 第44回植物感染生理談話会
平成20年8月7～9日
大子温泉郷余暇活用センター「やみぞ」
(茨城県)
- 第2回植物病害診断研究会
平成20年9月17日 神戸大学農学部(神戸市)
- 第24回土壌伝染病談話会
平成19年9月10～12日
高知大学農学部(南国市)
- 第5回教育プログラム
平成20年9月8～12日
鹿児島大学農学部(鹿児島市)
- 8) 名誉会員の推挙
評議員会で次の方を推挙することが決定された
(ABC順).
小島 誠氏, 鈴木 孝仁氏
- 9) 永年会員の推挙
評議員会で次の方を推挙することが決定された
(ABC順).
比留木忠治氏, 長井 雄治氏, 山口 武夫氏
- 10) 平成20年度学会賞
評議員会で次の3氏に授賞することが決定された
(ABC順).
秋光和也氏「カンキツと *Alternaria* 属菌間の相互反応
に関する分子生物学的研究」
- 一瀬勇規氏「*Pseudomonas syringae* の鞭毛を介した植物相互作用の研究」
土佐幸雄氏「植物病原糸状菌における種特異的寄生性の遺伝学的解析」
- 11) 平成20年度学術奨励賞
評議員会で次の3氏に授賞することが決定された
(ABC順).
古谷綾子氏「イネ白葉枯病菌の病原性に関する分子生物学的研究」
五味剣二氏「植物抵抗性誘導シグナルと宿主特異性に関する研究」
川口 章氏「ブドウ根頭がんしゅ病の診断と生物的防除および病原細菌の系統解析に関する研究」
- 12) 平成20年度論文賞
評議員会で次の2件に授賞することが決定された。
Nishimura N.: Selective media for *Fusarium oxysporum*. *J. Gen. Plant Pathol.* 73: 342-348 (2007)
Kawaguchi A., Inoue K. and Nasu H. Biological control of grapevine crown gall by nonpathogenic *Agrobacterium vitis* strain VAR03-1. *J. Gen. Plant Pathol.* 73: 133-138 (2007)
- 13) 平成21年度副会長選挙
平成20年11月施行(開票は11月12日), 上田一郎氏が選出された。

(2) 平成20年度会計報告

1) 一般会計収支計算書(平成20年1月1日から平成21年12月31日まで)

科目	予算額	決算額	差異	備考
I 事業活動収支の部	円	円	円	
1. 事業活動収入				
会費収入	25,010,000	24,427,124	582,876	
正会員会費収入	14,700,000	14,390,000	310,000	
学生会員会費収入	1,220,000	1,270,000	△50,000	
外国会員会費収入	300,000	182,474	117,526	
準会員会費収入	2,640,000	2,613,000	27,000	
賛助会員会費収入	5,750,000	5,550,000	200,000	
臨時会員会費収入	400,000	421,650	△21,650	
会報刊行収入	5,100,000	5,462,010	△362,010	
広告料収入	300,000	125,000	175,000	
著者負担金収入	4,800,000	5,337,010	△537,010	
研究成果公開促進費収入	5,000,000	4,100,000	900,000	
雑収入	545,000	807,425	△262,425	
預金利息収入	45,000	159,085	△114,085	
雑収入	500,000	648,340	△148,340	
事業活動収入計	35,655,000	34,796,559	858,441	

2. 事業活動支出				
会報刊行費支出	21,500,000	19,841,072	1,658,928	
印刷製本費支出	16,000,000	15,993,600	6,400	
編集費支出	5,500,000	3,847,472	1,652,528	
教育プログラム補助金支出	300,000	414,721	△ 114,721	
総会・大会費支出	1,000,000	1,000,000	0	
次年度大会準備支出	1,000,000	1,000,000	0	
部会等補助金支出	1,260,000	1,020,000	240,000	
部会補助金支出	700,000	700,000	0	
談話会等補助金支出	560,000	320,000	240,000	
情報電子化費支出	1,400,000	1,362,731	37,269	
HP充実費支出	700,000	580,000	120,000	
情報維持費支出	700,000	782,731	△ 82,731	
国際学術交流費支出	500,000	424,990	75,010	
学術奨励関係費支出	800,000	708,297	91,703	
負担金支出	600,000	525,025	74,975	
JABEE負担金支出	50,000	50,000	0	
農学会負担金支出	150,000	132,900	17,100	
ISPP負担金支出	300,000	242,125	57,875	
日本微生物学連負担金支出	100,000	100,000	0	
事業運営費支出	1,800,000	2,132,543	△ 332,543	
会議費支出	600,000	670,423	△ 70,423	
旅費交通費支出	1,200,000	1,462,120	△ 262,120	
管理費支出	5,607,000	6,126,564	△ 519,564	
通信運搬費支出	500,000	556,344	△ 56,344	
消耗品費支出	200,000	834,040	△ 634,040	
事務管理費支出	3,967,000	3,967,000	0	
印刷費支出	300,000	258,014	41,986	
外部監査管理費	120,000	125,738	△ 5,738	
雑支出	520,000	385,428	134,572	
事業活動支出計	34,767,000	33,555,943	1,211,057	
事業活動収支差額	888,000	1,240,616	△ 352,616	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
特定資産取崩収入	1,300,000	0	1,300,000	
学術奨励基金取崩収入	800,000	0	800,000	
国際交流基金取崩収入	500,000	0	500,000	
投資活動収入計	1,300,000	0	1,300,000	
2. 投資活動支出				
特定資産取得支出	0	4,200,000	△ 4,200,000	
会報刊行事業安定基金取得支出	0	4,000,000	△ 4,000,000	
国際学術開催基金取得支出	0	200,000	△ 200,000	
投資活動支出計	0	4,200,000	△ 4,200,000	
投資活動収支差額	1,300,000	△ 4,200,000	5,500,000	
III 財務活動収支の部				
IV 予備費支出	2,188,000	0	2,188,000	
当期収支差額	0	△ 2,959,384	2,959,384	
前期繰越収支差額	6,915,254	6,915,254	0	
次期繰越収支差額	6,915,254	3,955,870	2,959,384	

収支計算書に対する注記

日本植物病理学会

1. 資金の範囲について

資金の範囲には、現金・預金、未収金・未払金、仮払金・仮受金・前受金を含めている。なお、前期末及び当期末残高は、下記2に記載するとおりである。

2. 次期繰越収支差額（全会計合算）の内容は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期末残高
現金預金	15,031,754	12,770,020
未収金	1,440,000	1,545,000
仮払金	1,080,000	0
合 計	17,551,754	14,315,020
未払金	136,500	1,076,040
前受金		9,283,110
仮受金	10,500,000	0
合 計	10,636,500	10,359,150
次期繰越収支差額	6,915,254	3,955,870

2) 貸借対照表（平成20年12月31日現在）

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減	備 考
	円	円	円	
I 資産の部				
1. 流動資産				
現金預金	12,770,020	15,031,754	△ 2,261,734	
未収金	1,545,000	1,440,000	105,000	
仮払金	0	1,080,000	△ 1,080,000	
流動資産合計	14,315,020	17,551,754	△ 3,236,734	
2. 固定資産				
特定資産				
会報刊行事業安定基金	29,521,662	25,521,662	4,000,000	
学術奨励基金資産	17,027,595	17,027,595	0	
国際学術交流基金	15,227,083	15,027,083	200,000	
特定資産合計	61,776,340	57,576,340	4,200,000	
固定資産合計	61,776,340	57,576,340	4,200,000	
資産合計	76,091,360	75,128,094	963,266	
II 負債の部				
1. 流動負債				
未払金	1,076,040	136,500	939,540	
前受金	9,283,110	0	9,283,110	
仮受金	0	10,500,000	△ 10,500,000	
流動負債合計	10,359,150	10,636,500	△ 277,350	
負債合計	10,359,150	10,636,500	△ 277,350	

III 正味財産の部			
一般正味財産	65,732,210	64,491,594	1,240,616
正味財産合計	65,732,210	64,491,594	1,240,616
負債及び正味財産合計	76,091,360	75,128,094	963,266

財務諸表に対する注記

日本植物病理学会

1. 重要な会計方針

(1) 消費税等の会計処理は税込み方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
会報刊行事業安定基金	25,521,662	4,000,000	0	29,521,662
学術奨励基金資産	17,027,595	0	0	17,027,595
国際学術交流基金	15,027,083	200,000	0	15,227,083
合 計	57,576,340	4,200,000	0	61,776,340

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に対応す る額)
特定資産				
会報刊行事業安定基金	29,521,662	(0)	(29,521,662)	(0)
学術奨励基金資産	17,027,595	(0)	(17,027,595)	(0)
国際学術交流基金	15,227,083	(0)	(15,227,083)	(0)
合 計	61,776,340	(0)	(61,776,340)	(0)

3) 正味財産増減計算書 (平成20年1月1日から平成20年12月31日まで)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
	円	円	円
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	24,427,124	24,935,267	△ 508,143
正会員会費	14,390,000	14,694,000	△ 304,000
学生会員会費	1,270,000	1,220,000	50,000
外国会員会費	182,474	209,167	△ 26,693
準会員会費	2,613,000	2,692,500	△ 79,500
賛助会員会費	5,550,000	5,750,000	△ 200,000
臨時会員会費	421,650	369,600	52,050
会報刊行収益	5,462,010	4,759,956	702,054
広告料収益	125,000	125,000	0
著者負担金益	5,337,010	4,634,956	702,054
研究成果公開促進費収益	4,100,000	0	4,100,000
雑収益	807,425	559,801	247,624
預金利息	159,085	49,831	109,254
雑収益	648,340	509,970	138,370
経常収益計	34,796,559	30,255,024	4,541,535
(2) 経常費用			
会報刊行費	19,841,072	21,158,114	△ 1,317,042
印刷製本費	15,993,600	15,493,800	499,800
編集費	3,847,472	5,664,314	△ 1,816,842
教育プログラム	414,721	308,900	105,821
総会・大会費	1,000,000	1,000,000	0
次年度大会準備	1,000,000	1,000,000	0
部会等補助金	1,020,000	1,180,000	△ 160,000
部会補助金	700,000	700,000	0
談話会等補助金	320,000	480,000	△ 160,000
情報電子化費	1,362,731	1,809,469	△ 446,738
電子投稿システム	0	500,000	△ 500,000
HP 充実費	580,000	674,675	△ 94,675
情報維持費	782,731	634,794	147,937
国際学術交流費	424,990	0	424,990
学術奨励関係費	708,297	848,750	△ 140,453
負担金	525,025	510,775	14,250
JABEE 負担金	50,000	50,000	0
農学会負担金	132,900	171,500	△ 38,600
ISPP 負担金	242,125	289,275	△ 47,150
日本微生物学連分担金	100,000	0	100,000
事業運営費	2,132,543	2,704,506	△ 571,963
会議費	670,423	775,806	△ 105,383
旅費交通費	1,462,120	1,928,700	△ 466,580
管理費	6,126,564	5,282,328	844,236
通信運搬費	556,344	643,803	△ 87,459
消耗品費	834,040	81,292	752,748
事務管理費	3,967,000	3,768,000	199,000
印刷費	258,014	322,660	△ 64,646
外部会計監査費	125,738	0	125,738
雑費	385,428	466,573	△ 81,145
経常費用計	33,555,943	34,802,842	△ 1,246,899
当期経常増減額	1,240,616	△ 4,547,818	5,788,434

2. 経常外増減の部			
当期一般正味財産増減額	1,240,616	△ 4,547,818	5,788,434
一般正味財産期首残高	64,491,594	69,039,412	△ 4,547,818
一般正味財産期末残高	65,732,210	64,491,594	1,240,616
II 指定正味財産増減の部			
III 正味財産期末残高	65,732,210	64,491,594	1,240,616

4) 財産目録 (平成20年12月31日現在)

科 目	金 額		
I 資産の部		円	円
1. 流動資産			
現金預金	12,770,020		
現金手許有高	79,800		
普通預金	9,059,173		
三井住友銀行白山支店	4,506,722		
三菱東京UFJ銀行駒込支店	1,930,058		
ジャパンネット銀行	1,472,653		
CITIBANK	776,282		
編集事務局 京都銀行	358,072		
中央三井信託	15,386		
定期預金	3,042,270		
三菱東京UFJ銀行駒込支店	3,042,270		
振替貯金	588,777		
未収金	1,545,000		
流動資産合計		14,315,020	
2. 固定資産			
特定資産			
会報刊行事業安定基金	29,521,662		
三菱東京UFJ銀行駒込支店	4,000,000		
三菱東京UFJ銀行駒込支店 定期	22,971,934		
三井住友銀行白山支店定期2	2,549,728		
学術奨励基金資産	17,027,595		
三井住友銀行白山支店 定期	17,027,595		
国際学術交流基金	15,227,083		
三井住友銀行白山支店	200,000		
三井住友銀行白山支店 定期	8,046,584		
中央三井信託銀行 普通	480,499		
中央三井信託銀行 貸付信託	6,500,000		
特定資産合計	61,776,340		
固定資産合計		61,776,340	
資産合計			76,091,360
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	1,076,040		
前受金	9,283,110		
正会員	8,950,000		
学生会員	302,000		
外国会員	31,110		
流動負債合計		10,359,150	
負債合計		10,359,150	
正味財産			65,732,210

(3) 平成 20 年度会計監査報告

平成 20 年度日本植物病理学会収支決算について、平成 21 年 2 月 10 日に学会会計監査の結果、収支決算が確実なることを確認しました。その後、平成 21 年 2 月 17 日に秋濱会計事務所 秋濱直美公認会計士の監査を受け、決算書類が「我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、日本植物病理学会の平成 20 年 12 月 31 日をもって終了する会計年度の収支及び正味財産増減の状況並びに同事業年度末日現在の財産状態をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。」との監査報告書を受けました。

平成 21 年 3 月 19 日

会計監査

有 江 力 ㊞
夏 秋 啓 子 ㊞
雨 宮 良 幹 ㊞

(4) 平成 20 年度学会報編集報告

項目	ページ数											
	JGPP (英文誌)							日植病報 (和文誌)				
	1号 2月	2号 4月	3号 6月	4号 8月	5号 10月	6号 12月	計	1号 2月	2号 5月	3号 8月	4号 11月	計
[ページ数内]												
総説	13 (1)	...	14 (1)	27 (2)
原著論文	46 (6)	49 (6)	40 (5)	55 (7)	57 (7)	25 (3)	262 (34)	12 (2)	21 (2)	13 (2)	38 (6)	84 (12)
短報	20 (4)	36 (8)	21 (5)	13 (3)	...	9 (2)	99 (22)	7 (2)	11 (3)	4 (1)	8 (2)	30 (8)
病害短信	15 (5)	6 (2)	3 (1)	9 (3)	6 (2)	...	39 (13)	4 (1)	...	10 (3)	7 (2)	21 (6)
論文総頁	94 (16)	91 (16)	78 (12)	77 (13)	63 (9)	34 (5)	437 (71)	23 (5)	32 (5)	27 (6)	53 (10)	135 (26)
講演要旨 (会長・受賞者)	20 (7)	20 (7)	15 (7)	...	15 (7)
講演要旨 (平成 20 年度大会)	115	...	115
講演要旨 (平成 19 年度部会)	60	60
本会記事	5	2	14	1	22
その他	2	2	4	3	...	3
計	96 (16)	91 (16)	78 (12)	77 (13)	63 (9)	56 (12)	461 (78)	88 (5)	34 (5)	174 (13)	54 (10)	350 (33)
[ページ数外]												
大会案内・お知らせ	10	1	...	13	24
会則・規定	20	20
学会ニュース	4	3	7	8	22
その他	...	1	...	1	1	...	3	8	8	7	21	44
計	0	1	0	1	1	0	3	42	12	14	42	110
[総計]	96	92	78	78	64	56	464	130	46	188	96	460

* () 内は論文数

2. 平成21年度会務案

(1) 行事案

- 1) 学会報（英文誌第75巻第1～6号，和文誌第75巻第1～4号）を発行する。
- 2) 大会，部会，談話会，研究会を開催する。
 - ①大会：平成21年3月26～28日 山形大学小白川キャンパス，遊学館（山形市）
 - ②北海道部会：平成21年10月15～16日 北海道大学（札幌市）
 - ③東北部会：平成21年9月下旬 宮城大学食産業学部（仙台市）
 - ④関東部会：平成21年9月10～11日 日本大学生物資源科学部六会キャンパス（藤沢市）
 - ⑤関西部会：平成21年10月17～18日 神戸大学（神戸市）
 - ⑥九州部会：平成21年11月10日 グランデはがくれ（佐賀市）
 - ⑦EBC研究会ワークショップ2009：平成21年3月25日 山形大学小白川キャンパス（山形市）
 - ⑧第11回バイオコントロール研究会：平成21年3月29日 山形大学小白川キャンパス（山形市）
 - ⑨第19回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム：平成21

年3月29日 山形大学小白川キャンパス（山形市）

- ⑩第45回植物感染生理談話会：平成21年8月6日 大沼国際セミナーハウス（北海道亀田郡七飯町）
 - ⑪第3回植物病害診断研究会：平成21年10月14日 札幌全日空ホテル（札幌市）
 - ⑫第25回植物細菌病談話会：平成21年11月27～28日 静岡県男女共同参画センター「あざれあ」（静岡市）
- 3) 第6回植物病害の診断・防除教育プログラムを実施する。
平成21年8月17～21日 岐阜大学応用生物科学部（岐阜市）
 - 4) 学会賞，学術奨励賞，論文賞等の選考を行う。
 - 5) 大会において学生優秀発表賞の選考を行う。
 - 6) 名誉会員の推挙，永年会員の推薦を行う。
 - 7) 平成22～23年度評議員の選挙を行う。
 - 8) 平成22年度副会長の選挙を行う。
 - 9) その他
※平成22年度大会：平成22年4月18～20日 国立京都国際会館（京都市）

(2) 平成21年度収支予算書（案）

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減
	円	円	円
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
会費収入	24,489,000	25,010,000	△521,000
正会員会費収入	14,230,000	14,700,000	△470,000
学生会員会費収入	1,260,000	1,220,000	40,000
外国会員会費収入	189,000	300,000	△111,000
準会員会費収入	2,610,000	2,640,000	△30,000
賛助会員会費収入	5,750,000	5,750,000	0
臨時会員会費収入	450,000	400,000	50,000
情報電子化費支出	1,500,000	1,400,000	100,000
広告料収入	300,000	300,000	0
著者負担金収入	4,800,000	4,800,000	0
研究成果公開促進費収入	4,000,000	5,000,000	△1,000,000
雑収入	775,000	545,000	230,000
預金利息収入	75,000	45,000	30,000
雑収入	700,000	500,000	200,000
事業活動収入計	34,364,000	35,655,000	△1,291,000
2. 事業活動支出			
会報刊行費支出	20,000,000	21,500,000	△1,500,000
印刷製本費支出	16,000,000	16,000,000	0

編集費支出	4,000,000	5,500,000	△ 1,500,000
教育プログラム補助金支出	300,000	300,000	0
総会・大会費支出	1,000,000	1,000,000	0
次年度大会準備支出	1,000,000	1,000,000	0
部会等補助金支出	1,260,000	1,260,000	0
部会補助金支出	700,000	700,000	0
談話会等補助金支出	560,000	560,000	0
会報刊行収入	5,100,000	5,100,000	0
HP 充実費支出	700,000	700,000	0
情報維持費支出	800,000	700,000	100,000
国際学術交流費支出	500,000	500,000	0
学術奨励関係費支出	800,000	800,000	0
負担金支出	600,000	600,000	0
JABEE 負担金支出	50,000	50,000	0
農学会負担金支出	150,000	150,000	0
ISPP 負担金支出	300,000	300,000	0
日本微生物学連負担金支出	100,000	100,000	0
事業運営費支出	1,800,000	1,800,000	0
会議費支出	600,000	600,000	0
旅費交通費支出	1,200,000	1,200,000	0
管理費支出	5,597,000	5,607,000	△ 10,000
通信運搬費支出	500,000	500,000	0
消耗品費支出	200,000	200,000	0
事務管理費支出	3,967,000	3,967,000	0
印刷費支出	300,000	300,000	0
外部監査管理費	130,000	120,000	10,000
雑支出	500,000	520,000	△ 20,000
事業活動支出計	33,357,000	34,767,000	△ 1,410,000
事業活動収支差額	1,007,000	888,000	119,000
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
特定資産取崩収入	4,000,000	1,300,000	2,700,000
会報刊行事業安定基取崩収入	4,000,000	0	4,000,000
学術奨励基金取崩収入	0	800,000	△ 800,000
国際学術交流基金取崩収入	0	500,000	△ 500,000
投資活動収入計	4,000,000	1,300,000	2,700,000
2. 投資活動支出			
特定資産取得支出	200,000	0	200,000
国際学術開催基金取得支出	200,000	0	200,000
投資活動支出計	200,000	0	200,000
投資活動収支差額	3,800,000	1,300,000	2,500,000
III 財務活動収支の部			
IV 予備費支出	0	2,188,000	△ 2,188,000
当期収支差額	4,807,000	0	4,807,000
前期繰越収支差額	3,955,870	6,915,254	△ 2,959,384
次期繰越収支差額	8,762,870	6,915,254	1,847,616

(3) 学会報編集計画案

1) 編集機関

学会報第75巻の編集は、英文誌 (Journal of General Plant Pathology), 和文誌 (日本植物病理学会報 Japanese Journal of Phytopathology) とともに下記のように京都大学にて行う。

編集事務局：京都大学大学院農学研究科

編集委員長：奥野哲郎

副委員長：久保康之

編集幹事長：三瀬和之

印刷：英文誌 シュプリンガー・ジャパン (株)

和文誌 中西印刷 (株)

発行日：英文誌 1号2月, 2号4月, 3号6月,
4号8月, 5号10月, 6号12月

和文誌 1号2月, 2号5月, 3号8月,
4号11月

2) 投稿要領

原稿は投稿規定・細則に従って作成し、和文誌については、編集委員長 (〒606-8502 京都市左京区北白川追分町 京都大学大学院農学研究科 奥野哲郎) あて送付すること。

英文誌については、ウェブサイト <https://www.editorialmanager.com/jgpp> にアクセスして投稿すること。

平成21年度役員および委員

会長 白石友紀

副会長 上田一郎

評議員 (◎常任)

北海道地区 ◎上田一郎 近藤則夫 竹中重仁

東北地区 ◎吉川信幸 佐野輝男 生井恒雄
池上正人 古屋廣光

北関東地区 ◎夏秋知英 ◎高橋賢司 對馬誠也
阿久津克己 奥田誠一 石井英夫 畔上耕児 吉田幸二

南関東地区 ◎難波成任 ◎日比忠明
雨宮良幹 有江 力 夏秋啓子 寺岡 徹 堀江博道 陶山一雄

中部地区 ◎百町満朗 露無慎二 柘植尚志
稲垣公治 伊藤進一郎 川北一人

近畿地区 ◎眞山滋志 久保康之 草刈眞一
奥野哲郎 大木 理

中国・四国地区 ◎白石友紀 荒瀬 榮 尾谷 浩
秋光和也 曳地康史

九州地区 ◎大島一里 土屋健一 上運天博
岩井 久

会長指名 米山勝美 西尾 健 石黒 潔

森田健二 加来久敏 廣岡 卓

会計監査 夏秋啓子 雨宮良幹 有江 力

原著編集委員 (◎委員長, ○副委員長)

◎奥野哲郎 ○久保康之

秋光和也 Burgyán, J. He, S. Y.

Hidayat, S. H. 曳地康史 平塚和之

廣岡 卓 一瀬勇規 石黒 潔

加藤雅康 Kim, K.-H. Lee, Y.-H.

Lommel, S. A. Nagata, T. 難波成任

夏秋啓子 O'Connell, R. J. 大木 理

Peng, Y.-L. Scott, B. 宍戸雅宏

寺岡 徹 土佐幸雄 土屋健一

津田新哉 柘植尚志 吉田重信

吉川信幸

賞選考委員 (◎委員長)

◎白石友紀 上田一郎 佐野輝男

土屋健一 百町満朗 石井英夫

寺岡 徹

功績者推薦委員 (◎委員長)

◎日比忠明 堀江博道 難波成任

高橋賢司

選挙管理委員 (◎委員長)

◎雨宮良幹 前田孚憲 加来久敏

病名委員 (◎委員長)

◎月星隆雄 阿部恭久 荒城雅昭

堀江博道 石川浩一 岩井 久

門田育生 兼松聡子 勝部和則

近藤則夫 窪田昌春 楠木 学

宮川久義 仲川晃生 夏秋啓子

西村範夫 大木 理 大村敏博

佐藤 衛 佐藤豊三 白川 隆

瀧川雄一 田中文夫 富岡啓介

吉田重信 鈴井孝仁 (事務局)

幹事

庶務幹事長 築尾嘉章

庶務副幹事長 桑田 茂

庶務幹事 川上 顕 佐々木信光 佐藤 衛

会計幹事 篠原弘亮

編集幹事長 三瀬和之

編集幹事 海道真典 木場章範 望月知史

中屋敷均 高野義孝 田中千尋

東條元昭 津下誠治 辻 元人

専門委員会 (◎委員長)

学会ニュース編集委員会

◎加来久敏 築尾嘉章 桑田 茂
植草秀敏 佐藤 衛

植物ウイルス分類委員会

◎大木 理 石川浩一 大島一里
鈴木信弘 津田新哉 中野正明
難波成任 畑谷達児 山下修一
吉川信幸

国際対応委員会

◎露無慎二 難波成任 夏秋啓子
奥野哲郎 柘植尚志 加来久敏

情報電子化委員会

◎桑田 茂 有江 力 田村勝徳
山次康幸 寺岡 徹 川上 顕

財務委員会

◎露無慎二 日比忠明 難波成任
森田健二 寺岡 徹 佐々木信光

教育プログラム推進委員会

◎上田一郎 堀江博道 日比忠明
雨宮良幹 米山勝美 佐々木信光
石井英夫

技術士対応委員会

◎稲葉忠興 日比忠明 米山勝美
西尾 健 難波成任 築尾嘉章
佐藤 衛

JABEE 対応委員会

◎寺岡 徹 増田 税 生井恒雄
高橋英樹 夏秋知英 宍戸雅宏
根岸寛光 桑田 茂 瀧川雄一
古賀博則 大木 理 豊田秀吉
土佐幸雄 豊田和弘 大島一里
岩井 久

JGPP 対応委員会

◎白石友紀 眞山滋志 上田一郎
奥野哲郎 寺岡 徹 築尾嘉章
佐々木信光 佐藤 衛 川上 顕
篠原弘亮

男女共同参画学協会連絡会
夏秋啓子

部 会 長

北海道部会長 松本直幸
東北部会長 佐野輝男
関東部会長 前田孚憲
関西部会長 百町満朗
九州部会長 岩井 久

日本学術会議・日本農学会・国際学会等の委員
植物健康管理会議（仮称）対応委員
難波成任 寺岡 徹 石井英夫

日本微生物学連盟対応委員 露無慎二
日本農学会 評議員 白石友紀 上田一郎
運営委員 築尾嘉章

財団法人農学会 農学技術者教育推進委員会 築尾嘉章
国際微生物連合（IUMS）
対応委員 一瀬勇規
プログラム委員 宍戸雅宏
ウイルス分類委員 大木 理
細菌命名委員 瀧川雄一
国際植物保護会議委員 加来久敏
国際植物病理学会（ISPP）
Council Members
難波成任 白石友紀 高浪洋一
露無慎二 上田一郎

Correspondent for Newsletter 奥野哲郎
Members of Committee
Bacteriology 土屋健一
Chemical Control 石井英夫
Epidemiology 石黒 潔
Forest Pathology 鈴木和夫
Fusarium 青木孝之
Phytophthora 東條元昭
Rhizoctonia 内藤繁男
Seed Pathology 加来久敏
Soilborne Plant Pathogens 宍戸雅宏
Taxonomy of Plant Pathogenic Bacteria 瀧川雄一
アジア植物病理学会（AASPP）
Council Member 上田一郎

平成 21 年度大会運営委員会
大会委員長 生井恒雄
プログラム委員長 吉川信幸
名誉顧問 富樫二郎
事務局長 長谷 修
運営委員
荒井茂充 池上正人 磯貝雅道 伊藤 伝 尾形 正
加藤智弘 門田育生 菊地茂美 倉内賢一 小泉信三
小林括平 近藤 亨 笹原剛志 佐野輝男 佐藤健治
菅原 敬 杉山 悟 平子喜一 高橋英樹 竹田富一
田中和明 中島敏彦 仲谷房治 中村茂雄 猫塚修一
林 重昭 早坂 剛 平澤秀弥 深谷富夫 深谷雅子
藤 晋一 古屋廣光 本蔵良三 山下一夫 山本英樹
雪田金助（50 音順）

IV. 投稿規定（和文誌）および論文賞授賞規程の一部改正（資料1および2）

資料1

日本植物病理学会報（和文誌）投稿規定の一部改正

現 行（下線部を削除）	改 正（下線部を修正・追加）
<p>（平成7年11月25日，平成8年4月3日，平成10年5月19日，平成11年11月20日，平成12年11月25日，平成14年4月3日，平成14年8月15日，平成15年3月27日，平成17年3月28日一部改正）</p> <p>8. 総説は刷り上がり8頁以内，原著論文は刷り上がり6頁以内，短報・論説は刷り上がり3頁以内を原則とする。この頁数を超過した分は実費を著者負担とする。ただし，総説では12頁，原著論文では10頁，短報・論説では5頁を超えないことが望ましい。病害短信は刷り上がり2頁以内とし，超過を認めない。</p> <p>付 則</p> <p>1. この規定は平成15年1月1日から施行する。 2. 編集委員長の氏名および住所は事務局の移動に伴い変更する。</p>	<p>（平成7年11月25日，平成8年4月3日，平成10年5月19日，平成11年11月20日，平成12年11月25日，平成14年4月3日，平成14年8月15日，平成15年3月27日，平成17年3月28日，平成21年3月26日一部改正）</p> <p>8. 総説は刷り上がり8頁以内，原著論文は刷り上がり6頁以内，短報・論説は刷り上がり3頁以内，<u>病害短信は刷り上がり2頁以内</u>を原則とする。この頁数を超過した分は実費を著者負担とする。ただし，総説では12頁，原著論文では10頁，短報・論説では5頁，<u>病害短信では3頁</u>を超えないことが望ましい。</p> <p>付 則</p> <p>1. この規定は平成21年4月1日から施行する。 2. 編集委員長の氏名および住所は事務局の移動に伴い変更する。</p>

資料2

日本植物病理学会論文賞授賞規程の一部改正

現 行（下線部を削除）	改 正（下線部を修正・追加）
<p>4. 授賞候補論文の第2次推薦は，第3項で推薦された候補論文の中から評議員，正副編集委員長および国内原著編集委員により行う。<u>なお，推薦に当たっては，推薦理由を付す。</u></p> <p>5. 編集委員長は，正副編集委員長および部門別原著編集委員代表（編集委員長が選任する各部門1名の国内委員）から構成される選考委員会において，第4項で推薦された候補論文の中から2件以内の授賞候補論文を選定し，評議員会へ報告する。</p> <p>6. 授賞論文は，第5項により報告された授賞候補論文につき評議員会の了承を経て，<u>投票の過半数により承認し，</u>会長が決定する。</p> <p>付 則</p> <p>1. この規程は平成13年1月1日より施行し，一部改定は平成14年4月3日に行った。 2. この規程の一部改正は平成15年1月1日より施行する。</p>	<p>4. 授賞候補論文の第2次推薦は，第3項で推薦された候補論文の中から評議員，正副編集委員長および国内原著編集委員により行う。</p> <p>5. 編集委員長は，正副編集委員長および部門別原著編集委員代表（編集委員長が選任する各部門1名の国内委員）から構成される選考委員会において，第4項で推薦された候補論文の中から2件以内の授賞候補論文を選定し，評議員会へ報告する。<u>なお，報告にあたっては選定理由を付す。</u></p> <p>6. 授賞論文は，第5項により報告された授賞候補論文につき評議員会の議を経て，会長が決定する。</p> <p>付 則</p> <p>1. この規程は平成13年1月1日より施行し，一部改定は平成14年4月3日，<u>平成21年3月26日</u>に行った。 2. この規程の一部改正は平成21年4月1日より施行する。</p>